



BECHSTEIN KLAVIERSCHULE

ピアノ教育の現場から——

ベヒシュタインピアノの特性を活かしながら、音楽をより深く理解するピアノ教育を実践している内藤晃先生と石本育子先生のお二人による「ベヒシュタイン シューレ誌上特別レッスン」。第2回目の今回は「和声の移り変わりを感じる」をテーマにお届けします。

内藤晃先生の
レッスン開催決定

本誌上で「ピアノ音楽を表現すること」について、毎回様々な角度から分かりやすく解説いただいている内藤晃先生のリアルレッスンを汐留ベヒシュタイン・サロンにて開催いたします。ベヒシュタイン シューレの実際をぜひ体感してください。

■日程：2020年12月4日(金)

■会場：汐留ベヒシュタイン・サロン
東京都港区東新橋2-18-2
グラディート汐留1F
TEL:03-6432-4080

■受講枠

- (1) 10:30-11:20
- (2) 11:30-12:20
- (3) 13:30-14:20
- (4) 14:30-15:20

■料金

一般 11,000円(税込)
サロン会員 10,500円(税込)

■講師メッセージ

音楽という流動的な生きものを楽譜という殻の中に押し込めるのは、実はとても大変なことです。そこからこぼれ落ちてしまった大切なものを掬い取って命を吹き込むべく、音楽と楽譜のはざまで思いをめぐらせています。すばらしい楽器は、再び生まれてくる音楽に色彩と生命力をもたらしてくれます。汐留の名器ベヒシュタインとともに、音楽の生まれ出る瞬間のわくわくするような新鮮な感動を皆さまと分かち合いたいと願っております。

内藤晃

■受講希望・お問合せは、こちらまで！

yamada@bechstein.co.jp
TEL:042-642-1040
(八王子技術・営業センター
営業時間9:00-17:00、土日休み)
担当:山田

和声の移り変わりを感じて。



内藤 晃
(ピアニスト)



石本 育子
(たかまつ楽器ピアノ講師)



加藤 正人
(ベヒシュタイン・ジャパン代表)

石本：私のピアノのレッスン、既存のテキストも使いますが、少し曲のチョイスが変わっているかもしれません。

年齢で言うと6歳前後の生徒に、
ギロック「雨の日のふん水」

J.S.バッハ「平均律1巻1番プレリュード」

あと少し大きくなるとベートーヴェン「月光第1楽章」を課題としてよく弾いてもらっています。

課題を「弾ける練習」ではなく「和声の移り変わりを感じて音にする練習」をしてもらうためです。

内藤：脳で感じている音楽の変化が演奏に反映されるには、その指令が届くまでにわずかな時間が必要で、変化した瞬間にそれを感じても間に合いません。

脳で感じている部分と、手が弾いている部分には、少しだけ時差ができるわけです。「次にどうなるか」を常に前もって脳で感じながら、そちらの方向へと音楽を運んでいく必要がありますね。

石本：そうですね！

平均律のプレリュードは1小節内で同じ形が繰り返されていくので初歩の練習に適しているんです。月光1楽章にしても次の和声を考えている時間がありますね。

譜例1 平均律第1巻～プレリュード 八長調

脳内の動きを楽譜に記すとこんな風になります(和声はコードネームで表記しました)

PRAELUDIUM I

The score shows two systems of music. The first system starts with a C major chord (C) and includes fingerings 1, 2, 4. It then moves to a Dm/C chord (次はDm/Cへ) with fingerings 1, 3, 5, and finally a Dm/C chord (Dm/C). The second system starts with a G7/B chord (G7/B) with fingerings 3, 1, then moves to a C major chord (次はCへ), then to an Am/C chord (次はAm/Cへ), and finally to an Am/C chord (次はD7/Cへ).



内藤 晃
(ないとう あきら)

ピアニスト、指揮者、作編曲家。東京外国語大学ドイツ語専攻卒業。在学中よりピアニストとして演奏活動を始め、桐朋学園大学指揮教室、ヤルヴィアカデミー(エストニア)などで指揮の研鑽も積む。弾き振りを含む多彩な演奏活動とともに、「もっと深い音楽体験」を共有すべく、ユニークな発想でレクチャーや執筆を行う。月刊音楽現代に「名曲の向こう側」を連載、訳書にA.ゲレリヒ著「師としてのリスト」(近刊、音楽之友社)、校訂楽譜に「ジョン・アイアランド ピアノ曲集」「13人の女性によるピアノ小品集」(カワイ出版)などがあるほか、音楽雑誌やCDライナーノートの執筆も多い。札幌シンフォニエッタ、アピアント交響楽団、杉並グース合奏団などを指揮。2014年、全日本ピアノ指導者協会から新人指導者賞受賞。一次資料から作曲家の美意識を読み解く独自のレッススが各地で好評を得ている。CDに「Primavera」(レコード芸術特選盤)「言葉のない歌曲」(同準特選盤)などがあるほか、マリンバ吉川雅夫氏や作曲家春畑セロリ氏のCDでピアノを務め、一流ソリストや作曲家からも厚い信頼を寄せられている。主宰ユニット「おんがくしつりオ」では教育楽器によるエキサイティングなアレンジが人気を博し、全国各地に招かれている。
www.akira-naito.com



石本 育子
(いしもと いくこ)

静岡県浜松市出身。信愛学園高等学校音楽科を経て武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。古屋豊、川内澄江の各氏に師事。東京・浜松・香川において数多くのコンサートに出演するだけでなく、自主企画の演奏会を立案運営。独自の指導法による連続講座をピアニスト内藤晃氏と共に汐留ベヒシュタインサロンにて開催。たかまつ楽器青い鳥音楽教室主事。青い鳥マスタークラス主任講師、四国二期会会員。全日本ジュニアクラシック音楽コンクール及び東京国際ピアノコンクール審査員。



加藤 正人
(かとう まさと)

ドイツ・ピアノ製作マイスター称号を取得
現在ベヒシュタイン・ジャパン代表取締役社長

内藤:繰り返すところで、脳がいったん立ち止まって、「次を感じる」ことに集中できますからね!これが、スピーディーに絶えず移り変わっていく音楽になると、脳が次を感じながらフル稼働することになります。僕もひどく疲れている時などは、脳から音色への回路がスムーズでない時があり、そんな時は練習しないでスパッと休んだりするんですよ(笑)。「モグラ叩き」みたいになっちゃうので。

譜例2 平均律第1巻～プレリュード 八長調
このような「モグラ叩き」の状態から脱しましょう!

PRAELUDIUM I
あ! Dm/Cになった!(音色の変化が間に合わない!)

C 1 2 4 3 1 2

石本:そうそう(笑)脳をフル回転させています。
今お話ししてるのは、「次の音符を読んでいる」というのとはニュアンスが違って、次の和声を感じることに音色を想起することを瞬時にやっているんですよね。そんな時に実際に音色のパレットに色がたくさんある楽器が大切かと。

内藤:ベヒシュタインは、要求に応えてくれるのはもちろんですが、とりわけ音と音のあいだの軌跡もクリアに聴こえ、中間色のグラデーションが美しく出るところが好きです。和声や調性の変化とともに、音色が翳ったり、あたたかな光が差したり。そんな微妙な陰翳こそ、人の心の琴線に触れてくるのではないのでしょうか。

加藤:ベヒシュタインは、mp~fの音量、特に他のメーカーでは変化をつけるのが困難な中音域で、繊細にニュアンスの変化をつけられますね。ある部分をAのような造りにするとBのような特徴を出せる、とピアノ製作は単純にはいかず、ピアノの特徴は「構造の組み合わせ」で決まっています。
ベヒシュタインは発音される音の立ち上がり早く、その直後のディケイと呼ばれる減衰が比較的早く、しかしサスティーンが長いという音の特徴を狙っています。ハンマーが弦を打つアタック音の直後の減衰が早いということは、打弦タイミングのズレが聞き取り易くなります。ですから控えめに際立たせたい音をつくったり、響のスペクトルの変化を狙う時、ピアニストは例えば旋律と伴奏部に微妙な時間的なズレを、強弱の変化に組み合わせる事で、中間色のグラデーションをつけていると思います。ディケイが長い野太い音とは対照的な効果がベヒシュタインでは期待できます。

石本:ベヒシュタインの愛好家さんの中にはこのようなベヒシュタインの個性を知って中間色のグラデーションを探究し、より深い音楽表現を楽しんでいる方々がいらっしゃいます。今回誌上レッスンに取り上げました方もそのお一人です。

内藤先生、石本先生がお感じになっているベヒシュタインピアノの特性を活かしながら、
実際どのように生徒さんたちに音楽を理解させていらっしゃるのか、
誌上レッスンと動画をリンクして公開いたします。

近藤 嘉宏 公開レッスン



講師：近藤嘉宏

日時：2019年2月22日(金)、23日(土)

会場：汐留ベヒシュタインサロン

C. BECHSTEIN
KLAVIERSCHULE

近藤 嘉宏
ピアノ特別レッスン

2019年 2月22日(金) & 23日(土)

★好評の近藤先生特別レッスン 2019年2月22日(金) & 23日(土)開催です。

<p>開催日 2019年 2月22日(金)</p> <p>レッスン料 2月22日(金) 12,000円(税込) 2月23日(土) 12,000円(税込)</p> <p>レッスン内容 2月22日(金) 10:00-12:00 12:30-15:00 2月23日(土) 10:00-12:00 12:30-15:00</p> <p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p> <p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p> <p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p>	<p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p> <p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p> <p>受講料 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円 全額レッスン 12,000円</p>
--	--

※ 詳細は近藤先生ホームページをご覧ください。
※ 近藤先生ホームページ：http://www.kiyohikoendo.com/

※ 近藤先生ホームページ：http://www.kiyohikoendo.com/

※ 近藤先生ホームページ：http://www.kiyohikoendo.com/

コンサートピアニストとして活躍されている近藤嘉宏先生の公開レッスンが前年に引き続き、汐留サロンにて行われました。ベヒシュタイン・ジャパン主催のレッスンにも度々登場され、細やかで的確な指導は好評です。今回は、2台ピアノを並べてのレッスンで、受講曲もショパンのバラードやリスト、ラフマニノフ、プロコフィエフなど、ピアニストが好む大曲揃いでした。今回はその中から、2曲レッスンを覗かせていただきました。

♪ ラフマニノフ：前奏曲集 ト短調 op.23-5

「音量というよりは『縮まった音』が欲しいです。音の響きとしてもっと美しく、バランスをコントロールしましょう。大きい音はそんなに必要ではありませんが、指先のスピードが必要です。」

「和音の連打(【譜例1】)が今は割と無性格(表情に乏しい)なだけで、どう弾きたい？ペダルの響きも併せてゆっくりテンポを落として弾いてみて。」

ゆっくりのテンポで丁寧に自分の音を聴き、ハーモニーの変化を確かめていくよう、繰り返し指導されました。すると、速いテンポで弾いていた時は気が付かなかった絶妙なハーモニーの移り変わりや、層の違いが少しずつ見えてきて、立体的に聞こえてきました。

次に、中間部【譜例2】。「和音が変わった瞬間に色が変わります。これをもっと感じ取って逐一反応して。」

「内声の対旋律(【譜例2】赤丸)も意識してよく聞かせて。常にすべて(の声部)が独立していて、全部が有機的に噛み合っなければいけません。」

「右手の旋律のふくらみをもっと感じて。結果的に説明すると、この音より次の音の方が大きくなってしまふけれども、それをそのまま再現しようとするというよりも、こういう音が出したい、こう弾きたいと求めることが大事です。もっと自ら音を求めて。」欲することが重要です、とのメッセージが強く印象に残りました。

最後に練習方法について、受講生にメッセージを一言。「まず速く弾く必要はないので、とにかく一つ一つの音を丁寧に精度高く。音色、バランス、細心の注意を払って繊細に作っていきましょう。速いのは一か月に一回くらいで良いです(笑)。」

筆者もとりわけ大曲になってくると早く弾けるようになりたい、という気持ちが先走って細かい練習がおざなりになり時に純粋に音の響きを楽しむことを忘れてしまいがちですが、今回のレッスンでひとつひとつの音を愛しみながらの丁寧な練習の積み重ねの大切さと欲深く音を求めることの大切さについて改めて考えさせられました。

【譜例1】 ラフマニノフ：前奏曲集 ト短調 op.23-5 冒頭



【譜例2】 ラフマニノフ：前奏曲集 ト短調 op.23-5 中間部



♪ リスト：スペイン狂詩曲(スペインのフォリアとホタ・アラゴネーサ) S.254 R.90

「表現したいことはすぐ伝わってくるので良いですね。ただ、奏法がやや叩いてるようになっているので、試しに椅子を少し高くしてみてもいいかですか」とのアドバイス。すると、手首や腕の位置が上がり、自然に鍵盤に体重が乗せられる状態になりました。

「それでもっと(腕の重さを)落として弾む感じにしてみたらどうでしょう。」(【譜例3】)

響きがだんだんと広がりベヒシュタインが鳴ってきました!

【譜例3】リスト：スペイン狂詩曲 序奏冒頭



カデンツ風のアルペジオの速い走句の部分(【譜例4】)は、「指先で一音一音を点で集め、音の発音をもっと絞って。そうするともっと音の粒もそろってきて、動きも無駄がなくなると思います。」

実際、受講生の音が前と比べ、さらびやかに、軽やかになっているではありませんか!

【譜例4】リスト：スペイン狂詩曲 序奏の一部



その後、ゆっくりとしたバスのテーマが軸となる、いわゆる「フォリア」の部分。

※前半は「フォリア」というイベリア半島に起源を持つゆっくりとしたテンポの舞曲によっている。「フォリア」は短調で定型化したバスと和声進行をもとに変奏を行うという演奏慣習があり、リストもこの慣習の通り変奏曲形式で作曲している。(ピティナ・ピアノ曲辞典同曲解説より引用)

「右手が加わってきたら(【譜例5】)、テーマとそれに呼応する右手の合いの手がお互いにもっと関連しあって。掛け合いをしながらつながっていくように。さらにそのあとの右手が付点のリズムでテーマを変奏する時は、ひとつひとつの和音がクリアに。」

【譜例5】リスト：スペイン狂詩曲 「フォリア」の部分



近藤先生のレッスンは妥協がなく細やかで毎回リピーターの方も多く、体の使い方、弾き方についてのご指導もたくさんしてくださり、大変勉強になりました。ベヒシュタイン・ジャパンでは今後も定期的にレッスンを開催していく予定です。奏法に悩まれている方、刺激を受けたい方など、是非次回以降のレッスンのご参加をおすすめします。日程などの詳細は弊社ホームページをご覧ください。(文責：前田)

【引用楽譜】

Petrucci Music Libraryより

・Rachmaninoff: 10 Preludes, Op.23

http://ks4.imslp.net/files/imglnks/usimg/c/cc/IMSLP01144-Rachmaninoff_Prelude_Opus_23_No._5.pdf

・Liszt: Rhapsodie espagnole, S.254

https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/1/1f/IMSLP158417-PMLP02612-Liszt_Klavierwerke_Peters_Sauer_Band_3_16_Rhapsodie_espagnole_S.254_scan.pdf



石本先生
レッスン動画

<https://youtu.be/wOSXejoyqGGA>

QRコード読み取りアプリでご覧ください。



石本先生



Aさん

次の和声を感じる (基礎編)

とてもよい感性をお持ちの大人の生徒Aさんがレッスンにいらっしゃいました。ご自身もベヒシュタインユーザーであり、ベヒシュタインで豊かな音楽を奏でることに喜びを感じてくださっています。現在は月光の第1楽章を弾いていらっしゃいます。

Aさん、月光第1楽章をステキな音色で弾き始めて7小節目まで弾いてきたのですが急にやり直されました。



石本：どうされました？

Aさん：実はここ大好きな箇所なのですが、感極まって弾いているとついガツンと音が出てしまって、がっかりしてしまうんです。

石本：なるほど。

Aさん：月光1楽章は大好きな箇所がそこかしこにあって、感動しながら弾いているんです。特に15小節目の「シレ#ファ」から「シ#レ#ファ」の和音に変化するところにとっても感激して、このたった半音の違いはなんて偉大なんだろうと。で、感激しすぎて次をミスってしまったりするんです(笑)



石本：Aさんはとても豊かな感性をお持ちで、ご自身の脳内にある音楽をベヒシュタインで十分に表現されていらっしゃいますね。

時々ご自身が思ってもいない大きな音が出てしまってびっくりしてしまう、という場合も実は脳の指令の問題だと思います。

ピアノを弾くとき、脳の働きはとても大事で、「音楽全体のイメージづくり」「弾いているときに次の音楽を思い浮かべる」「思い浮かべた音楽・音のイメージ通りに身体が間に合って動くように指令を出す」など、一度にたくさんのごことをしています。その音を出す少し手前で、どのように身体を使ったら思ったとおりの音楽になるか？を一瞬で判断しなければなりません。楽しみながら追究してってください。

Aさん：はい。以前先生が耳と神経を研ぎ澄ませて指先を鍵盤に置くように、と仰っていたのがだんだん解ってきた気がします。もっともっと音楽を楽しんで弾いていけそうです。

内藤晃 先生 特別誌上レッスン①



内藤先生
レッスン動画

<https://youtu.be/pkqS-npEjvY>

QRコード読み取りアプリでご覧ください。

次の和声を感じる (応用編)

内藤：ここ(5小節目)はどこに転調した？

Rくん：Des-durです。

内藤：Des-durはAs-durの…

Rくん：えーと…下屬調。

内藤：そうすると、もとのAs-durのときの心のテンションに比べると…

Rくん：リラックスする方向にいきます。

内藤：やってみて！

Rくん：(悪戦苦闘)

内藤：もっと脳で先回りして感じて、すーっと緊張解けますよっていう指令を出さないと。新しい調性の景色が見えてくるのはどこ？

Rくん：Gesが出てくるところ(4小節目)です。

内藤：このGesですーっとDes-durの世界に連れていきたいよね。背中を後ろ方向に引っ張られるようにすっとゆるめてみて！

Rくん：(演奏)

内藤：そう、その感じ！背中が前傾でイケイケモードのままだと、テンションが高まりっぱなしになっちゃうよね。緊張解く方向のときは背中をリラックスさせたいんだけど、瞬時に反応してくれるものでもないから、そこに差し掛かる一瞬前に、次リラックスさせるぞって指令を脳で出すんだ。

Rくん：前もって次を感じていかないとですね。

内藤：脳→身体→音色の回路をつくるのに、脳と指の時差に慣れないとね！

イラスト：いとう まりこ



内藤先生



Rくん

C. BECHSTEIN
JAPAN

株式会社ベヒシュタイン・ジャパン

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山9-2-1

TEL:03-3305-1211 FAX:03-3305-9931

E-mail: info@bechstein.co.jp

HP: https://www.bechstein.co.jp/



発行人 加藤正人・営業企画室